

# アシスト

市川市サッカー協会第4種委員会 委員長 石原孝幸

## 平成27年度がスタートしました。

4月18日、19日、25日に行われた「第36回市川北ライオンズ杯争奪市川市少年サッカー親善大会」を皮切りに、平成27年度がスタートしました。今年は三日間とも好天に恵まれ、滞りなく大会を執り行うことができました。子ども達は初夏を思わせる爽やかな薫風を感じつつ、大好きなサッカーに興じることができたものと思います。共催していただいた市川北ライオンズクラブの皆様はじめ、各クラブの代表者、コーチの皆様、ならびに審判委員会の皆様に厚く感謝申し上げます。ありがとうございました。

## —理想のチームづくり④—

4月は、学年が一つ大きくなり、新たな気持ちで取り組むことができるチャンスでもあります。今日はあるチームのA君の話をしようと思います。

A君は現在6年生ですが、5年生の1学期ころから登校を渋るようになり、2学期、3学期と全く登校できなくなってしまいました。学校には登校できないのですが、学校で行われているサッカークラブの活動には参加することができ、平日の夕方の練習や土日の練習や練習試合などには欠かさず通い、大会にも出場していました。今年4月、6年生になり、A君は一念発起し、また学校のサポートもあり、短い時間の日もありますが毎日登校することができるようになりました。4月の欠席日数は0日でした。

現在、市川市内で何らかの理由で学校に通うことができない小中学生は約350名。このうち小学生は約70名程です。残念ながら、A君のように少しでも好転する例はあまり多くないのが現状です。

ややもすると、不登校になると引きこもりのようになってしまいがちですが、今回のように良い方向に向かえた要因を考えてみると、サッカークラブの活動に参加できたことが極めて大きいと思います。サッカーが好きでサッカーのために学校に行くことは嫌ではなかったこと。A君を受け入れる仲間がたくさんいたこと。またそのような人間関係作りを当たり前のこととして捉える指導者がいたこと等があげられます。

実際このチームの代表者にA君のことについて話を聞く機会があり尋ねてみたところ「石原さん。学校に行けなくてもサッカーがやりたいのならどんどん受け入れるべきですよ。当たり前のことでしょう。」と答えが返って来ました。私は、このチームの代表者の考え方はもちろん、その考えが、担当学年のコーチ達にまで浸透していることに感激しました。A君は、本当に、このチームに出会えてよかった。

私たち指導者は、もしかすると、その子の人生を左右する大切な瞬間に出会っているのかもしれない。「子どもを中心に考える指導」とは、こんな責任も負っているのだと思います。私たち指導者の行動や言葉は、一つひとつがとても重いのだと、改めて考えさせられました。